

令和元年度第1・2回
「知る、分かる、考える、統合型リゾート（IR）セミナー」
質疑応答要旨

（質問者1）

IRについては、カジノが1番中心の議題になる。しかし、カジノについては、従来から依存症に関する講演会等は沢山あるが、カジノの経営面・産業面に関する説明は少ないため、そのエビデンス（証拠）を説明してほしい。特に、カジノがなぜ儲かるのかという点と、カジノも今後オンライン化が進むと思われ、大阪まで来てカジノをするのかという懸念に対する説明がほしい。

また、大阪のIRは成功すると思うが、成功した場合、今までIRを進めていなかった国、例えば、中国が深圳や上海の近くでIRをつくることも想定できるし、シンガポールも指をくわえて大阪のIRを眺めているということはないため、他国・ライバルとの競争において、法律等に縛られている大阪のIRでは競争力が低いと思われ、その辺りについても説明がほしい。

（回答：溝畑講師）

私は、他国との競争においては、絶対勝てると思っている。それは、大阪のIRだけを見るのではなく、日本全体として見るからである。以前、シンガポールの方に、日本には四季の変化、美しい自然があり、多くの資源を持っているため、日本がIRに取り組んだ場合、人工的にできた街である我々のIRでは本気で取り組まないと勝てないと言われたことがある。

大阪にIRができた場合、四季の変化に加え、周辺には京都・奈良・神戸だけでなく、瀬戸内がある。さらに延ばせば、北陸や長野にも繋げることができる。つまり、単に大阪だけで見るのではなく、日本の観光のショーケースを一大結集して勝負する。その優位性により、私は他国を圧倒できると考えている。ただ、大阪のIRから日本各地に観光客を送り出す送客については、まだまだ課題があり、今からしっかり作っていく必要がある。

競争という意味では、単にカジノ施設だけに観光客が来られるわけではなく、IRには家族連れからビジネス客まで幅広く来られるため、大阪をハブとして観光客を周遊させ、しかも景観を含めて見せるということが、競争力を高めることになると思う。

（回答：職員）

なぜ、カジノが儲かるのかということについては、競馬や競輪といった公営競技と比べ、カジノは必要経費が少ないということもあり、その分、利益率が高いものと考えている。

また、カジノのオンライン化については、賭博が刑法で禁止されている中、日本のIRにできるカジノについては、特別法をもって、その違法性を阻却するという形になっているため、将来的にカジノがオンライン化するかは疑念に思うところであるが、そうしたことも含め、引き続き、国の動向を見て行く必要があると考えている。

いずれにしても、IRは民設民営の事業となるため、カジノに関する内容をどこまで具体的に説明できるかという問題はあるが、説明のあり方については、今後検討させていただきたい。

（質問者2）

IRを大阪・夢洲につくるにあたり、シンガポールとは異なる点、大阪でつくる良さについて、特徴やカラー等、具体的なイメージを教えてください。

令和元年度第1・2回
「知る、分かる、考える、統合型リゾート（IR）セミナー」
質疑応答要旨

また、大阪には大阪府立国際会議場やインテックス大阪がある中で、IRにMICE施設ができることにより、既存の施設が衰退しないか懸念している。

（回答：溝畑講師）

特色については、日本の観光のショーケースとなることである。シンガポールやマカオ、ラスベガスと比較しても、これだけ歴史・文化・伝統・景観・四季の変化といったものが近接にあるところは、おそらく世界広しといえども少なく、その点、大阪は関西の中心にあり、それらの資源を十分活かせる立地にある。大阪のIRに来れば、日本の観光全体を堪能できるというところが売りになると考える。交通の利便性に関しても、夢洲への鉄道の延伸が順調に進めば、鉄道・空港・海路がコンパクトに集結することになり、非常に優れた点と言える。

また、既存のMICE施設に関する懸念について、私は全く心配していない。理由は、シンガポールには1級品のMICE施設が3つあるが、それらを使い分けているからである。MICEを1か所だけで開催するのではなく、中会場・大会場があって、ネットワークを結んで開催する。日本全体に言えることであるが、IRに世界水準のMICE施設をつくることで、今までは誘致できていなかった1級品の国際会議・展示会を誘致することができる。誘致できた場合には、それに合わせ、サテライト的な会場を含めて全体に波及すると考えている。

現在、大阪では、夢洲エリアにできるMICE施設と、中之島エリアや梅田・大阪エリアのMICE施設が連携を取り、できれば一元化し、誘致したMICEを全体に振り分けていくことを準備し始めている。どの施設も潤うように、連携とターゲットの絞り方等について、大阪MICE推進委員会という場で官民あげて検討しており、ご指摘のことがないようにしっかり努めていきたい。

（質問者3）

資料「大阪がめざすIRについて」の8頁に、1期・2期・3期という図があるが、2期目・3期目については、万博後を想定していると理解している。1期目のIR事業者とは異なるのかもしれないが、2期目・3期目に、仮に1期目と同規模のIRを誘致した場合、2倍・3倍と経済効果があると理解すればいいのか、もしくは違うのか、今の想定でいいので教えてほしい。

（回答：職員）

大阪府・大阪市では、平成29年8月に夢洲まちづくり構想を策定し、夢洲全体の将来的な絵姿を示したものを取りまとめている。その中で、第2期では、エンターテインメントや産業・ビジネス、その他関連機能を、第3期では、長期滞在者用の機能を設ける、といった大きな方向性は出しているが、具体的に何を整備していくかについては、今後の検討となっている。なお、第2期・第3期にIRは想定していない。

（質問者4）

IRを大阪に誘致でき、2022年に着工できる状態になったとして、2025年の春に開業・部分開業するのであれば、3年の工期しかない。（報道によると）公募を経て、この秋口頃に大阪府・大

令和元年度第1・2回
「知る、分かる、考える、統合型リゾート（IR）セミナー」
質疑応答要旨

阪市として組むIR事業者を決定した後、日本でIRが3都市選ばれるのは来年春と言われているが、IR事業者は相当準備しているとは思ふものの、非常に短期間での着工となる。IRの施設は膨大なもので、ソフト面に至っても相当細かいところまで詰めないといけない。仮に、投資規模9,300億円のうち土地代を700億円とした場合、8,600億円の施設ができ、その半分が建設費になったとしても4,300億円になる。IRの各ブロックの規模が1,000億円から2,200億円になった時に、多分、ゼネコンの大阪支店を全部集めても、その施工が間に合うのかどうか。

また、現在、夢洲には夢舞大橋しか橋が架かっていない。あれだけ多くのコンテナヤードがあって、大量の物資を運ばないといけない時に、あの橋1本だけでは到底対応できないと思う。船など色んな手法を考えているとは思ふが、大阪府・大阪市として何か解決策を持っているのか。9,300億円の投資規模でできると思っていたのが3割増になったというような話になっては、採算性の問題に響いてくると思うので、どのように考えているのか教えてほしい。

（回答：溝畑講師）

2025年の万博前にIR開業を間に合わせようとした場合のロードマップについて、万博との相乗効果を考えれば、当然、開業を早くした方がいい。万博を成功させるためにもメリットがあるし、国際競争力という意味でも、2027年、2028年に開業となると、2020年のオリンピックから7、8年のロス是非常に大きい。早期開業は大きなミッションだと思うが、いずれにしても国の制度設計に非常にリンクしており、知事と市長の記者会見・答弁でも一貫しているのは、万博に間に合うよう国に働きかけているということ。国が基本方針を策定後、大阪府・大阪市が実施方針を策定し、事業者の公募・選定という流れになるが、現時点で、国が明確に、いつカジノ管理委員会を設置し、基本方針を策定するかを決めていないため、知事・市長としては、第一義として、万博に間に合うよう国と折衝しているということをおっしゃっているのだと思う。

2024年が近づくにつれて、国内・大阪だけを見てもプロジェクトが目白押しである。大阪では、うめきた2期工事があるし、中之島では大阪中之島美術館の整備や未来医療国際拠点の形成がある。東京でも2023～2025年に色々あり、日本中でよくこんなに工事があるなという状態。そういう中で、2025年も含めて安心・安全・快適に工事をする場合、官民あげての体制を作りに加え、国も関わらないと厳しいと思っている。それを実感しているのは、昨年の関西国際空港が浸水した件。私は、政府と色々相談していたが、最初、連絡橋が復旧するのは来年のゴールデンウィークと言われていた。それでは大阪の経済がボロボロになると伝えたら、なんと9月に復旧した。あれは明らかに政府主導であり、政府が大号令をかけて復旧させたと思う。このため、我々も最大限努力するが、万博の成功を考えた時に、国がどう号令をかけてくれるのかが重要である。

しかし、それでもギリギリできること、できないことがあり、現実的な決断を迫られてくることになるだろう。特に、ご指摘の工事に伴う人材と建材、輸送、それに伴う様々なインフラ整備の問題。当然のことながら、万博の成功のためには国と連携をとって、しっかり対応すべきことであるが、2024年辺りが大変であるということは非常に悩ましいとは思っている。

（回答：職員）

少し補足させていただく。開業時期の点については、この4月から「(仮称)大阪・夢洲地区特

令和元年度第1・2回
「知る、分かる、考える、統合型リゾート（IR）セミナー」
質疑応答要旨

定複合観光施設設置運営事業」の事業コンセプトの募集（RFC）を始めており、その中で、万博前の開業をめざしつつ、世界最高水準のIRの実現に向けて、開業時期も含めIR事業者から提案を募集することになっている。もちろん万博前の開業をめざしていくが、RFCの中で、今後、IR事業者とも対話して検討を進めていきたいと考えている。

また、工事の資材の運搬等を含めた点について、現在、夢舞大橋と夢咲トンネルの2つのルートがあり、他の想定される手段としては船ということも考えられるが、具体的な解決策についてはこれからの検討となる。いずれにしても重要な課題であることは認識している。

（質問者5）

私は年金受給者であるが、IRやカジノができると、私のような立場の人間にどのようなメリットがあるのか。依存症や治安など不安材料は沢山あるし、インバウンドが増加したからといって年金が増えたわけでもなく、IRができるメリットよりもデメリット・不安の方が大きい。

また、B/C（費用便益比）をどう見込んでいるのか、算出できているなら教えてほしい。

（回答：溝畑講師）

IRにしても観光にしても、来てよし、住んでよし、働いてよしとならなければいけない。住んでいる方が、IRや観光によって幸せに、豊かになることが大前提だと思っており、日本のIRの制度設計の中で、納付金は、福祉や教育、治安といった住民福祉の増進など、皆さんへのサービスにしっかりと還元していくこととしている。

何よりも、大阪の名前が世界に轟き、素晴らしい都市になっていく。自分が住んでいる都市が世界に認められることは、住んでいる皆さんにとっては幸せを実感できるのではないか。そのように皆さんが実感できるように、今後そういったデータを共有していきたい。幸せの感じ方は人それぞれであるが、自分が住んでいて幸せかというのは、自分で考えて自分でやらなくてはならない分野だと思う。人それぞれ生き方があるので、全ての価値観を共有するつもりはないが、この土地に住んでいてよかったということと、その都市をみんなが見ていて素晴らしい都市だと思うことは、きっと皆さんにプラスの影響があるのではないか。素晴らしいと感じていただけるように、まだまだ努力不足ではあるが、これから頑張っていきたいと思っている。

（回答：職員）

IR立地による効果は、資料「大阪がめざすIRについて」の34頁から37頁で説明させていただいたところであるが、IR事業は民設民営の事業であり、IR立地にかかる様々な行政コストについて、現時点では積み上げたものはない。

（回答：溝畑講師）

今の補足として、財政出動的なものは厳密にはないが、プロジェクトを直営で行うにあたって、例えば、IR推進局を設置するといった体制作りには当然コストが掛かっている。これに伴う財政出動は出てこず、IRは民設民営であるということをご理解いただきたい。

令和元年度第1・2回
「知る、分かる、考える、統合型リゾート（IR）セミナー」
質疑応答要旨

（質問者6）

MICE 施設が不足しているという説明があったが、先の G20 を見ても分かるように、一流の国際会議をインテックス大阪で開催できており、インテックス大阪の展示場 7 万㎡と、先程説明のあったノウハウを使えば、オールインワンの MICE 会場ができるのではないかと。大阪で東京の 1、2 割しか MICE が開催されない要因は、MICE 開催経費が東京に比べて大幅に高いからで、今回、その経費を IR 事業者が全部負担させようとしている。資料「大阪がめざす IR について」15 頁の「③オール大阪での MICE 推進・誘致体制の強化」を読むと、あたかも IR を MICE でもって支援するという表現に見えるが、MICE 開催経費を支援という名目で IR 事業者が全部負担させるのではないかと。その場合、大阪の IR 事業者は、他の IR と比べて、魅力増進施設を十分にリニューアルや新設していくことができなくなり、結果、IR はスラム化する危険性を持っている。特に、上海や広州には 20 万㎡以上の見本市会場があり、ラスベガスでは 20 万人規模の情報関連や医療関係の国際会議が開催されており、そうした大型 MICE は、資料に記載の国際会議場や展示等施設、3,000 室のホテルを整備したぐらいで開催できるのか。本当に大阪で開催しようとするならば、他地区とどう連携をとるべきかなど十分検討してほしい。

最後に、講演の中で、シンガポールのリー・シェンロンが、MICE を開催するために IR をつくったという表現があったが、大きな間違いで、リー・シェンロンとリー・クアンユーの国会演説を読めばわかるが、シンガポールは、マリーナ・ベイ・サンズにカジノを許可するにあたり MICE 開催の条件は付けていない。MICE のために IR をつくるという間違っただけでは混乱が起きる。

（回答：溝畑講師）

先程のリー・シェンロン首相の発言内容は、私と 2 人の時に話していたもので、その中で、シンガポールには MICE 施設が 2 つあるが、さらに機能強化するために、サンズが作る MICE 施設では、特に、インセンティブ（報奨）をはじめ、文科系の MICE を強化していきたいとおっしゃった。このため、IR の目的として明確に MICE 強化は当然に含まれている。

また、IR 事業者が全てを任せるのではなく、大阪 MICE 推進委員会において、IR の MICE 施設と、中之島エリアやうめきた 2 期の MICE 施設をしっかりと連携させ、住み分けをしていく。しかし、10 万㎡以上の展示面積がないとできない MICE があつたり、インテックス大阪の展示面積は 7 万㎡あるが、そこに大規模な会議室がないためできない MICE もある。IR に国際会議場と展示等施設が一体となった世界水準の MICE ができることで、これまで誘致できていなかった MICE を誘致できるようになる。そして、1 か所で開催するわけではなく、サテライト的に、例えば京都や神戸とも連携をとったりする。IR の MICE 施設で全てが完了するのではなく、IR 事業者と既存の MICE 事業者が連携を取り、相互の負担をして MICE を成し遂げていくということ。ただし、大型 MICE は既存の MICE 施設では開催が困難なため、その部分について IR 事業者に求めている。

G20 は 30 か国の首脳が集まって会議を開催するもので、インテックス大阪の機能で対応できた MICE であり、インテックス大阪を否定しているわけではない。引き続き、インテックス大阪も機能を発揮してもらおう前提である。全てが相応の負担をし、協力して進めていくということであり、一方的に IR が衰退し、スラム街になるのではなく、全体が潤うための仕組みを作っていく。